**令和６年度　学校経営計画**

四條畷市立四條畷小学校

|  |
| --- |
| **１　学校経営方針** |
| 【学校教育目標】  「一人ひとりが　輝き合う　畷小」  ～じっくり考え　ともに挑み　互いを認め合う子の育成～    　めまぐるしく変化する時代の様相に,子どもたちが身につけるべき力はどのようなものなのだろうか。今こそ,教育の影響力をしっかりと発揮していくときなのではないだろうか。  　四條畷市教育振興基本計画に掲げられた基本理念「みんなの学びが叶うまち～生涯　学び　夢　挑戦～」は,まさに今,学校だけではない「教育」がめざしていきたいものであることを再確認する。  　変化の激しい流れの中で,これまでの経験や知識だけでは対応しきれないことが多くなっていくだろう。まずは,周りの状況を的確にとらえ,課題を明確にする観察や考察が重要となる。また,何かを成し遂げようとするとき,何かを変えようとするとき,常に新しいことや簡単ではないことに挑む力が発揮されることを期待したい。挑むことは,容易ではなく,また単純なことでもない。だからこそ,複数の様々な力をもった人たちと協働することを前提としていかなければならない。そのことを実現させるには,様々な力をもっていることを互いに知り,その力を互いに認め合うことから始まる。  　予測不可能な社会情勢をよりよく生きていくために必要な力を,必要に応じて合わせたり,変化させたりしていくことを学校での学習活動の中で学ぶことが求められていると考える。  　　これまで不可欠とされた物事を処理するために必要である基礎的な学習内容を礎に,さまざまな問題などに主体的に,かつより多角的な見方を携えて関わり,解決していく子どもたちを育てていきたい。  　　同時に,子どもたちは様々な背景の中で困り感を感じていることも確かである。現代が抱える課題そのままが,子どもたちに見られることは当たり前のことではあるが,不登校などの生徒指導上の課題やICTの日常的な活用から生まれる様々な問題,学びに対する興味関心など子どもたちに見ることができる課題を一つひとつていねいに取り組むことにより,子どもたちにとっても魅力ある,安心できる学校となるよう努めていく。  　　このような学校づくりをめざし教育活動全体で,「非認知能力」について焦点を当て,「学習」「生徒指導」などこれまで学校教育が分けてとらえてきたことを,全体像でとらえて子どもたちの内面にアプローチしていく取り組みを進めていきたい。 |

校　長　　　香　村　　紀　子

|  |  |
| --- | --- |
| **２　めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）** | |
| **★めざす学校像** | 一人ひとりが　輝き合う　畷小 |
| **★めざす子ども像** | ○　じっくり考え　やりぬく子  ○　力を合わせて　がんばる子  ○　すこやかな体と豊かな心を　育む子 |
| **★めざす教師像** | ○　ともに学び続け,互いに支え合う教職員  ○　学ぶ意欲を引き出す教職員  ○　子ども理解を深め,育ちを支える教職員 |

|  |
| --- |
| **３　学校の現状（よさと課題）** |
| （１）子どもたちの実態  本校は市内で最多数の児童が在籍し,南は四條畷神社,北は國中神社付近,東は清滝峠そして西は畷生会病院と非常に広大な校区を有する学校である。子どもらしい,明るく元気な様子で毎朝登校している。学力向上に取り組むと子どもたちは一生懸命取り組むが,成果として達成感を十分に感じられるほどには至っていない。同時に不登校傾向がみられる子どもたちは少なくなく,一人ひとりが様々な課題と向き合いながら,学校生活を送っている。  　　しかし,それでも自分や友だちのよさを見つける取組みを展開する中で,少しずつ自信をつけ友だちとつながっていこうとしている姿が見られてきている。今後の一層の成長を期待し,教職員の取り組みに成果がみられるようにしなければならないと改めて考える姿がたくさんみられる子どもたちである。  （２）子どもたちを取り巻く環境  ①教育環境  　　歴史ある地域にあって,新たに宅地開発がなされ,ところどころに新しい住居がみられる。すぐ近　くには,飯森山から連なる山々やその昔水車があったという川など四條畷郷土史カルタに出てくる場所の多くは本校の校区内にあるというほど,歴史と自然豊かな環境にある。  ②地域  　　創立１３０年を超える古い歴史ある学校である。これまで多くの卒業生を送り出してきた。この歴  史ある学校に対して,愛着をもつ地域の方々も少なくない。「四條畷小学校の卒業生です」と積極  的に声をかけてくださる地域の方も多くいらっしゃる。本校を大切に思ってくださる地域の方々に支  えていただき,またとても教育活動には大変協力的な地域である。  ③組織（教職員、PTA、保護者）  　　教職員は,子どもたちの指導に温かさと厳しさをもってあたり,よりよく育ちゆくことを真剣に考えながら業務にあたる。ていねいな学習指導や居心地よい学級づくりをめざし,ともに学び合うことを大切にしてきている。また,子どもたち一人ひとりの様子を細かに観察し,課題に向き合いながら根気よく指導に当たっている。新たな教職員を迎え,本校がめざす方向性を全体でとらえ,めざすことができるよう,教職員の関係性を高め,取り組んでいこうとしている。  　　PTAは,積極的に子どもたちの学校生活を支えていこうとする保護者の方々が,様々な形で協力し合うことのできる仕組みを構築して運営している。コロナ禍の終息とともに,独自の活動を展開し子どもたちがより楽しく安心して学校生活を送ることができるよう環境を整える活動を展開し今後の発展を期待するところである。また,歴史ある学校であることから,代々学校を支えてくださったPTAの方々が今も応援団として,後援会が存在している。  　　保護者は,学校の教育活動に協力的である。子どもたちの登校時には多くの保護者が子どもたちの様子を見ながら一緒に校門まできてくださる。その様子からも,学校と保護者とがそれぞれの役割を果たしつつ,ともに子どもたちを育て見守っていこうとする思いを感じる。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **４　今年度の達成目標、具体的な方策** | | |
| **目標設定区分１　『学校経営』** | | |
| **Ａ　今年度の成果目標** | | **達成基準（各種調査、アンケート等）** |
| ・「非認知能力」を高め,意欲をもって主体的に学習や活動に取り組む子どもの育成をめざす。  ・子どもたちが,安心して学校生活を送り,居心地のよい学校づくりを行う。 | | 学校教育自己診断,児童生徒教職員アンケートにおいて,意欲をもって主体的に取り組む姿勢とそれを振り返っての肯定的意見を向上させる。  A：学校に行くのが楽しい。（児）（保）  B：学校行事は,楽しい。（児）  C：自分のクラスは,みんなが仲良くしている。（児）（保）  Ｄ：授業は分かりやすく楽しい。（児）（保）  Ｅ：授業でわからないことについて,先生や友だちに聞くことができる。(児)  Ｆ：学校では,一人ひとりが大切にされている。  Ｇ：自分にはよいところがあると思う。  Ｈ：課題解決に向けて,自分で考え,自分から取り組んだ。(児)  I：学校行事などで自分の役割をはたすことができた。 |
| **Ｂ　目標実現に向けた取組み** | | |
| **項目** | **達成基準** | **具体的な方策** |
| 主体的・対話的な学びを実現し,粘り強く取り組む場面設定や指導の展開 | D：（児）８５％以上  　　　(保)８５％以上  E：９０％  H：８０％ | ○めあてを明確に示し,子どもが主体的に学ぶ授業づくりを推進する。  ○一人ひとりの児童理解に基づいた適切な指導の在り方  　（支援の充実・合理的配慮）  ○基礎的基本的学力の向上 |
| 児童の自己肯定感・自己有用感につながる取組みの推進 | A：（児）８２．５％  　　（保）　８５％以上  B:（児）８０％  C：（児）８０％  　　（保）９０％  F：８５％  G：８２．５％  I：８５％ | ○「いいねの花」の継続的な取組みと児童相互の共有を図る。  ○特別の教科「道徳」など道徳教育の充実  ○新規不登校児童を増やさないていねいな児童理解と対応  ○「ほっとルーム」など児童の困り感に対応する体制の充実 |
|  | | |
| **目標設定区分２　『学校組織の運営』** | | |
| **Ａ　今年度の成果目標** | | **達成基準（各種調査、アンケート等）** |
| 学校の組織力の充実 | | 学校教育自己診断,児童生徒教職員アンケートにおいて,教職員の組織についての意識向上と学校としての取組みについて積極的な認識・姿勢を向上していく。  A：学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し,学校として組織的に取り組んでいる。  B：校内研修で取り組むことで,「非認知能力」についての学びが進んだ。  C：「非認知能力」の育成をめざし,授業づくりに学びをいかすことができた。  D：教育活動全般にわたり,目的や意図を明確にして取り組んでいる。  E：各分掌や学年間の連携は円滑かつ有機的に機能している。  F：校内研究組織が確立し,計画的に研修が実施されている。  G：児童の問題行動党に対して,生活指導部を中心として組織的に対応している。  H:先生は,いじめなど自分が困っているとき,真剣に対応してくれる。（児）  I:授業でわからないことについて,先生や友だちに聞くことができる。(児) |
| **Ｂ　目標実現に向けた取組み** | | |
| **項目** | **達成基準** | **具体的な方策** |
| ○非認知能力の向上をめざした教職員どうしの学びを深める。 | A：９０％  B：８０％  C：８０％ | ○学習指導部の取組みを全教職員ですすめる。  ○四條畷中学校と連携を意識した取組みを積極的に授業に取り入れていく。 |
| ○非認知能力の向上をめざした取り組みを,全指導部の取組みとして全校展開する。 | A：９０％  D:８５％  E：８５％  F：８５％ | ○学習指導部と他の分掌と協働して,非認知能力の向上に向けて,明確に取組みを展開する。  ○学習指導部長や児童・生徒支援コーディネーターが,組織的に取組みが展開されるよう提案,調整などを行う。 |
| ○子どもたちの安心安全な学校生活を教職員等全体でつくる。 | G：８０％  H：８０％  I：９０％ | ○「わかる授業」の展開を追求する。  ○いじめ・不登校などの子どもたちの困り感の把握とその共有を図る。  ○様々な緊急事態に対応できる力の育成（避難訓練など） |
|  | | |
| **目標設定区分３　『人の管理・育成』** | | |
| **Ａ　今年度の成果目標** | | **達成基準（各種調査、アンケート等）** |
| 教職員の資質向上と学校運営への参画意識の育成 | | 学校教育自己診断,児童生徒教職員アンケートや年度末反省において,取組みについて肯定的意見を増やす。  A：学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し,学校として組織的に取り組んでいる。  B：年度末反省の分析  C：今年度,四條畷小学校で働くのは楽しかった。 |
| **Ｂ　目標実現に向けた取組み** | | |
| **項目** | **達成基準** | **具体的な方策** |
| 児童・生徒支援コーディネーターなどミドルリーダーの役割を全体で理解し,一人ひとりの教職員の役割とつなげて働きかける。 | A：９０％  B：肯定的な意見や積極的な意見 | ○ミドルリーダーとのコミュニケーションを図ることを通じて,それぞれの主体的な働きかけを促す。  ○ミドルリーダーの役割を教職員が理解し,それぞれの部署で有機的な動きにつながるよう教職員一人ひとりが意識を向上する。 |
| 教職員一人ひとりの役割を明確にし,主体的に組織に働きかける仕組みをつくる。 | A：９０％  B：肯定的な意見や積極的な意見  C：８０％ | ○各指導部での役割を理解し,自らすすんで取組みや提案などが行えるような教職員のつながりを醸成する。  ○教職員のつながりを築くうえで,一人ひとりが教育公務員としての自覚が持てるよう学びの場を設定する。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **目標設定区分４　『地域連携と渉外』** | | |
| **Ａ　今年度の成果目標** | | **達成基準（各種調査、アンケート等）** |
| 積極的な学校の取組みの発信  学校運営協議会の活動充実 | | 学校教育自己診断アンケートや小中連携会議等に関する年度末反省において,肯定的意見の向上をめざす。  A：学校だよりなど様子を知らせるお便りの発行をすすめる。  B：学校だよりなどにより,学校の教育活動の様子がよくわかる。  C：学校運営協議会の活動を知っている。  D：学校運営協議会での総括 |
| **Ｂ　目標実現に向けた取組み** | | |
| **項目** | **達成基準** | **具体的な方策** |
| 学校だよりの発行により,保護者地域へ学校の取組みを発信する。 | A：学校だよりは月１回以上の頻度及び肯定的意見  B：８０％ | ○学校だよりは,月１回以上の発行を行う。  ○他の全校的な取組みを進める担当から,保護者等にむけての通信発行をすすめる。 |
| 学校運営協議会の活動充実と方針の検討 | C：７５％  D：肯定的意見 | ○昨年度の取組みを定例化しつつ,より充実した活動につなげていくことを検討する。  ○学校運営協議会について周知をすすめる。 |